



1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(本数)D-5号ターミナル施設等整備工事(メンテナンスショップ(機械))	階数	地上2F
建設地	横浜市中区本牧心頭1-16番地他	構造	S造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	100 人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,920 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年3月 予定	評価の実施日	2023年06月01日
敷地面積	5,576 m ²	作成者	河崎 猛士
建築面積	1,542 m ²	確認日	2023年06月06日
延床面積	2,629 m ²	確認者	人見 伸也

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%
②建築物の取組み 74%
③上記+②以外の 74%
④上記+ 74%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.3

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.1

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 1.1

LR のスコア = 3.7

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.4

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.2

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.4

3 設計上の配慮事項

総合		その他
主要給排水配管は耐用年数が高い材料を使用している。 ライフサイクルCO ₂ 排出率の低減に努め、地球環境保護に配慮している。		特になし。
Q1 室内環境 開口部遮音性能:T-2以上。 自然換気有効開口面積が居室床面積の1/30以上。	Q2 サービス性能 給水SUS(C)、給湯SUS(C)、排水VP(B)を使用。 階高:3.9m以上。 0.1≦[壁長さ比率]<0.3	Q3 室外環境(敷地内) 特になし。
LR1 エネルギー BPI _m =0.71。 BEI _m =0.52。	LR2 資源・マテリアル 節水マなどに加えて、節水型便器も採用している。 LGS使用している。 発泡剤を用いた断熱材等を使用していない。	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ 排出率74% 燃焼機器を使用していない。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい

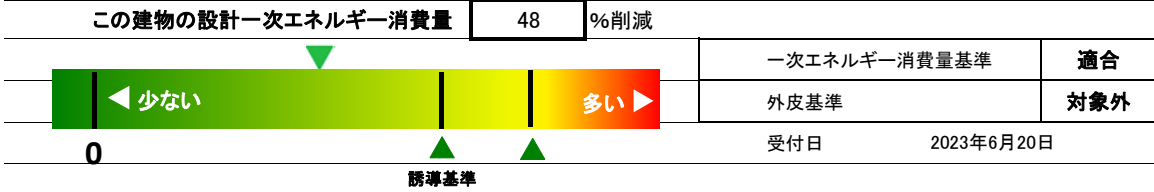


4 横浜市重点項目についての環境配慮概要 <非住宅>

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。 建物名称 (本牧)D-5号ターミナル施設等整備工事(メンテナンスショップ(機械))

建築物の省エネルギー性能 (E) Energy Saving 重点項目への取組(5点満点) **【省エネルギー性能】 5**

■省エネルギー性能 (国土交通省告示に基づく表示)



■エネルギー対策 (①建物外皮の熱負荷抑制 ②自然エネルギー利用 ③設備システムの高効率化 ④効率的運用)

- ①BPI_m=0.71。
- ③BEI_m=0.52。

健康・快適な職住環境 (W) Smart Wellness Community 重点項目への取組(5点満点) **【快適・働きやすさ】 2**

■室内環境対策 (⑨温熱環境対策 ⑩光環境 ⑪空気質環境)

⑪JIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している。

■機能性対策 (⑫機能性 ⑬知的生産性向上の取組)

■室外環境(敷地内)対策 (⑭敷地内温熱環境の向上)

防災への配慮 (R) Resilience 重点項目への取組(5点満点) **【防災】 3**

■耐用性・信頼性 (⑮耐震・免震 ⑯部品・部材の耐用年数向上 ⑰信頼性)

⑯給水SUS(C)、給湯SUS(C)、排水VP(B)を使用。

地域・まちづくりへの貢献 (T) Township & Townscape 重点項目への取組(5点満点) **【地域・まちづくり】 1**

■室外環境(敷地内)対策 (⑱生物環境 ⑲まちなみ・景観 ⑳地域性への配慮)

太陽光発電などの導入

環境配慮技術の導入

(太陽光・熱利用、エネルギーマネジメントシステム以外)

エネルギーマネジメントシステム導入

CASBEE[®] 横浜 | 評価結果 | 5-029



CASBEE横浜2022年版v.1.0

【本数】D-5号ターミナル施設等整備工事(メンテナンスショップ(機械))

バージョン CASBEE横浜2022年版v.1.0

スコアシート	実施設計段階				建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
	配慮項目	重点項目		評価点	重み係数	評価点	重み係数		
		<非住宅>	<集合住宅>						
Q 建築物の環境品質								2.3	
Q1 室内環境								3.0	
1 音環境				3.6	0.15			3.6	
1.1 騒音				3.0	0.40				
1.2 遮音				4.2	0.40				
1 開口部遮音性能				5.0	0.60				
2 界壁遮音性能				3.0	0.40				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-				
1.3 吸音				4.0	0.20				
2 温熱環境	W			2.6	0.35			2.6	
2.1 室温制御				3.0	0.50				
1 室温	快適・働きやすさ		⑨温熱環境	3.0	0.38				
2 外皮性能	快適・働きやすさ	健康・安心	⑨温熱環境 ⑤外皮性能	3.0	0.25				
3 ゾーン別制御性	快適・働きやすさ		⑨温熱環境	3.0	0.38				
2.2 湿度制御	快適・働きやすさ		⑨温熱環境	1.0	0.20				
2.3 空調方式	快適・働きやすさ		⑨温熱環境	3.0	0.30				
3 光・視環境				2.7	0.25			2.7	
3.1 屋光利用				1.8	0.30				
1 屋光率	快適・働きやすさ		⑩光環境	1.0	0.60				
2 方位別開口	快適・働きやすさ		⑩光環境	-	-				
3 屋光利用設備	快適・働きやすさ		⑩光環境	3.0	0.40				
3.2 グレア対策				3.0	0.30				
1 屋光制御	快適・働きやすさ		⑩光環境	3.0	1.00				
3.3 照度	快適・働きやすさ		⑩光環境	4.0	0.15				
3.4 照明制御	快適・働きやすさ		⑩光環境	3.0	0.25				
4 空気質環境	W ⑩			3.4	0.25			3.4	
4.1 発生源対策				4.0	0.50				
1 化学汚染物質	快適・働きやすさ		⑪空気質環境	4.0	1.00				
4.2 換気				4.0	0.30				
1 換気量	快適・働きやすさ		⑪空気質環境	5.0	0.33				
2 自然換気性能	快適・働きやすさ	建築物開工後 自然換気性能 自然換気性能	⑪空気質環境	4.0	0.33				
3 取り入れ外気への配慮	快適・働きやすさ	開口部遮音性能	⑪空気質環境	3.0	0.33				
4.3 運用管理				1.0	0.20				
1 CO ₂ の監視	快適・働きやすさ		⑪空気質環境	-	-				
2 喫煙の制御	快適・働きやすさ		⑪空気質環境	1.0	1.00				
Q2 サービス性能					0.30			3.1	
1 機能性				3.0	0.40			3.0	
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40				
1 広さ・収納性	快適・働きやすさ		⑫機能性	3.0	0.33				
2 高度情報通信設備対応	快適・働きやすさ		⑫機能性	3.0	0.33				
3 ハリアフリー計画	快適・働きやすさ		⑫機能性	3.0	0.33				
1.2 心理性・快適性				3.5	0.30				
1 広さ感・景観	快適・働きやすさ		⑫機能性	3.0	0.50				
2 リフレッシュスペース	快適・働きやすさ		⑫機能性	4.0	0.50				
3 内装計画	快適・働きやすさ		⑫機能性	-	-				
1.3 維持管理				2.5	0.30				
1 維持管理に配慮した設計	快適・働きやすさ		⑫機能性	3.0	0.50				
2 維持管理用機能の確保	快適・働きやすさ		⑫機能性	2.0	0.50				
2 耐用性・信頼性	W ⑬			2.9	0.30			2.9	
2.1 耐震・免震				3.0	0.50				
1 耐震性	防災		⑬耐震・免震	3.0	0.80				
2 免震・制振性能	防災		⑬耐震・免震	3.0	0.20				
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	0.30				
1 躯体材料の耐用年数	防災		⑬部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.20				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	防災		⑬部品・部材の耐用年数向上	2.0	0.20				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	防災		⑬部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.10				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	防災		⑬部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.10				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	防災		⑬部品・部材の耐用年数向上	4.0	0.20				
6 主要設備機器の更新必要間隔	防災		⑬部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.20				
2.4 信頼性				2.6	0.20				
1 空調・換気設備	防災		⑬信頼性	3.0	0.20				
2 給排水・衛生設備	防災		⑬信頼性	2.0	0.20				
3 電気設備	防災		⑬信頼性	3.0	0.20				
4 機械・配管支持方法	防災		⑬信頼性	3.0	0.20				
5 通信・情報設備	防災		⑬信頼性	2.0	0.20				
3 対応性・更新性	R ⑭			3.4	0.30			3.4	
3.1 空間のゆとり				4.6	0.30				
1 階高のゆとり				5.0	0.60				
2 空間の形状・自由さ				4.0	0.40				
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.30				
3.3 設備の更新性				3.0	0.40				
1 空調配管の更新性				3.0	0.20				
2 給排水管の更新性				3.0	0.20				
3 電気配線の更新性				3.0	0.10				
4 通信配線の更新性				3.0	0.10				
5 設備機器の更新性				3.0	0.20				

CASBEE[®] 横浜 | 評価結果 | 5-029



CASBEE横浜2022年版v.1.0

(本数)D-5号ターミナル施設等整備工事(メンテナンスショップ(機械))

バージョン CASBEE横浜2022年版v.1.0

スコアシート		実施設計段階		重点項目		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		<非住宅>	<集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
	6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.38	-	-	-	-	1.1
1		生物環境の保全と創出	地域・まちづくり	⑩生物環境の保全と創出	1.0	0.30	-	-	-	1.0
2		まちなみ・景観への配慮	地域・まちづくり	⑨まちなみ・景観への配慮	1.0	0.40	-	-	-	1.0
3		地域性・アメニティへの配慮			1.5	0.30	-	-	-	1.5
3.1		地域性への配慮、快適性の向上	地域・まちづくり	⑫地域性への配慮	1.0	0.50	-	-	-	-
3.2		敷地内温熱環境の向上	快適・働きやすさ	⑭敷地内温熱環境の向上	2.0	0.50	-	-	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	-	-	3.7
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	-	-	4.4
1		建物外皮の熱負荷抑制	省エネルギー性能	①建物の熱負荷抑制	5.0	0.20	-	-	-	5.0
2		自然エネルギー利用	省エネルギー性能	②自然エネルギー利用	3.0	0.10	-	-	-	3.0
3		設備システムの高効率化	省エネルギー性能	③設備システムの高効率化	5.0	0.50	-	-	-	5.0
4		効率的運用			3.0	0.20	-	-	-	3.0
		集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	-	-
4.1		モニタリング	省エネルギー性能	④効率的運用	3.0	0.50	-	-	-	-
4.2		運用管理体制	省エネルギー性能	④効率的運用	3.0	0.50	-	-	-	-
		集合住宅の評価			-	-	-	-	-	-
4.1		モニタリング	省エネルギー性能	④効率的運用	-	-	-	-	-	-
4.2		運用管理体制	省エネルギー性能	④効率的運用	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	-	-	3.2
1		水資源保護	E④	-	3.4	0.20	-	-	-	3.4
1.1		節水			4.0	0.40	-	-	-	-
1.2		雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	-	-
1		雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	-	-
2		雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	-	-
2		非再生性資源の使用量削減			3.1	0.60	-	-	-	3.1
2.1		材料使用量の削減			2.0	0.11	-	-	-	-
2.2		既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22	-	-	-	-
2.3		躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.22	-	-	-	-
2.4		躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			3.0	0.22	-	-	-	-
2.5		持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	-	-
2.6		部材の再利用可能性向上への取組み			4.0	0.22	-	-	-	-
3		汚染物質含有材料の使用回避			3.7	0.20	-	-	-	3.7
3.1		有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	-	-
3.2		フロン・ハロンの回避			4.0	0.70	-	-	-	-
1		消火剤			-	-	-	-	-	-
2		発泡剤(断熱材等)			5.0	0.50	-	-	-	-
3		冷媒			3.0	0.50	-	-	-	-
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	-	-	3.4
1		地球温暖化への配慮			4.0	0.33	-	-	-	4.0
2		地域環境への配慮	0	0	0	3.2	0.33	-	-	3.2
2.1		大気汚染防止			5.0	0.25	-	-	-	-
2.2		温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	-	-
2.3		地域インフラへの負荷抑制			2.0	0.25	-	-	-	-
1		雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	-	-
2		汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	-	-
3		交通負荷抑制			1.0	0.25	-	-	-	-
4		廃棄物処理負荷抑制			1.0	0.25	-	-	-	-
3		周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	-	3.0
3.1		騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	-	-
1		騒音			3.0	1.00	-	-	-	-
2		振動			-	-	-	-	-	-
3		悪臭			-	-	-	-	-	-
3.2		風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	-	-
1		風害の抑制			3.0	0.70	-	-	-	-
2		砂塵の抑制			-	-	-	-	-	-
3		日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-	-	-
3.3		光害の抑制			3.0	0.20	-	-	-	-
1		屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			3.0	0.70	-	-	-	-
2		屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	-	-
上記以外の重点項目					-	-	-	-	-	-
<事務用途>					-	-	-	-	-	-
		知的生産性向上への取組	快適・働きやすさ	⑬知的生産性r-	-	-	-	-	-	-
<住宅用途>					-	-	-	-	-	-
健康と安心					-	-	-	-	-	-
1		化学汚染物質の対策	健康・安心	⑥健康対策	-	-	-	-	-	-
2		適切な換気計画	健康・安心	⑥健康対策	-	-	-	-	-	-
3		結露・カビ対策	健康・安心	⑥健康対策	-	-	-	-	-	-
4		犯罪に備える(共用部の防犯対策)	健康・安心	⑦防犯対策	-	-	-	-	-	-